

論述ブースト No.1

医学部小論文を"論証"として書く ―― 感想文から脱して採点者に刺さる答案へ

導入文

医学部小論文で「体験談や感想を書く」アプローチをとっている受験生は、採点者（大学教員）に「印象はよいが論証がない」と評価される。「論証として書く」という視点を持つと、小論文の書き方が根本から変わり、採点者に刺さる答案になる。

講義概要

医学部小論文を「体験の報告」から「医療課題への立場表明+論証」へ転換する。論点を立てる→立場を表明する→根拠を示す→反論に答える→結論という論証の骨格を高校生向けに還元し、どのテーマでも使える論述の型を作る。

授業目標：医学部小論文を「感想文」から「論証」として書ける状態へ移す。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・医療系の総合型選抜・学校推薦型選抜を受験予定で、小論文・面接の論理的な表現力を高めたい生徒。

授業時間：授業90分+演習・質疑応答30分

到達目標：医療課題を論点として立てられる／課題認識→立場表明→論証の流れで書ける／感動談に頼らない小論文が書ける

授業構成（90分）+演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：「感想文で終わる」答案と「論証ある」答案を比較 2 概念導入：論証の5ステップを小論文に適用 3 実践：医療テーマで論点を立てる演習 4 演習：課題認識→立場→根拠→反論処理→結論を書く 5 応用：志望理由書・面接への接続 6 まとめ：「まず論点を立てる」を最初の一手に固定

追加30分：論証骨格の相互フィードバック演習を行い、「論点が弱い」「根拠が感想になっている」場合の修正方法について質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：論証の5ステップ／論点の立て方／根拠と感想の違い／志望理由書・面接への応用

課題：医療倫理テーマ（安楽死・臓器移植・医師不足から1つ選択）で論証骨格（5ステップ）を作り、400字の小論文を書く。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。